

	検査項目	基準値	単位	備考
肝 臓	AST (GOT)	13-30	U/L	肝臓に多く含まれる酵素で肝臓の細胞が破壊されると 血中に漏れ出するため、数値が上がります
	ALT (GPT)	男 10-42 女 7-23	U/L	
	γ - GTP (ガンマ-GTP)	男 13-64 女 9-32	U/L	アルコールに敏感に反応し、アルコール性肝障害の指標となっています
	ALP (アルカリホスファターゼ)	38-113	U/L	主に胆道の病気の指標となります
	LDH (乳酸脱水素酵素)	124-222	U/L	すべての臓器にある酵素で細胞の変性や壊死を反映します
	ChE(コリンエステラーゼ)	男 240-486 女 201-421	U/L	主に肝疾患により低下します
	Bil(T・D)(ビリルビン)	T 0.4-1.5 D 0-0.3	mg/dL mg/dL	胆汁の主成分で黄疸のもととなる黄色の色素です
	TP (総タンパク)	6.6-8.1	g/dL	栄養摂取や吸収の状態をみています
	アルブミン	4.1-5.1	g/dL	
	A/G 比	1.32-2.23		
腎 臓	UN (尿素窒素)	8-20	mg/dL	蛋白質の代謝産物で腎臓にてろ過排出されます
	CRN (クレアチニン)	男 0.65-1.07 女 0.46-0.79	mg/dL mg/dL	筋肉の代謝産物で腎臓にてろ過排出されます
	IP (リウ)	2.7-4.6	mg/dL	蛋白質の代謝産物で骨形成に役立ちます
	尿検査 (蛋白・潜血)	(-)		腎臓や膀胱などの障害によって尿中に排出されます
膵 臓	AMY (アミラーゼ)	44-132	U/L	膵臓病の診断や病気の経過観察に使用します
	Lipase (リパーゼ)	13-49	U/L	
心 臓	CK (クレアチンキナーゼ)	男 59-248 女 41-153	U/L U/L	心筋や骨格筋などの傷害を反映します
甲状腺	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	0.34-4.22	μU/m L	甲状腺ホルモンの分泌の状態をみます
	FT4 (遊離甲状腺素)	0.77-1.59	ng/dL	
糖尿病	空腹時血糖	73-109	mg/dL	全身でエネルギーとして利用され、食事や運動によって変化します
	食後血糖			
	HbA1c(NGSP) 尿糖	4.9-6.0	%	過去 1~2 ヶ月前の平均的な血糖値を反映します 陽性の場合糖尿病が疑われます

貧血	Fe(血清鉄)	40-188	$\mu\text{g/dL}$	<p>※以前の基準値より赤血球数と血小板数の桁数が変更となります。</p> <p>赤血球数が<b>1/100</b>、血小板数が<b>10倍</b>となります！ 貧血や多血症などの病気がわかります</p> 	
	赤血球数(RBC)	男	$\times 10^6/\mu\text{L}$		
		女	$\times 10^6/\mu\text{L}$		
	血色素量(Hb)	男	g/dL		
		女	g/dL		
ヘマトクリット(Ht)	男	%			
	女	%			
血小板数(PLT)	158-348	$\times 10^3/\mu\text{L}$	出血したときに、血を止める働きをします		
脂質	TCHO (総コレステロール)	142-248	mg/dL	<p>動脈硬化の危険因子で主に肝臓でつくられます</p> <p>善玉コレステロールとよばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます</p> <p>TGが高値の場合は、肥満・糖尿病・脂肪肝の原因になります</p>	
	LDL-cho	65-163	mg/dL		
	HDL-cho	男	38-90		mg/dL
		女	48-103		mg/dL
TG (中性脂肪)	男 40-234 女 30-117	mg/dL mg/dL			
痛風	UA (尿酸)	男 3.7-7.8 女 2.6-5.5	mg/dL mg/dL	高値の場合高尿酸血症と診断され、痛風などの原因になります	
炎症	赤沈	男 2-10 女 3-15	mm/hr mm/hr	感染症や炎症があると高値になります	
	CRP (C反応性蛋白)	0-0.14	mg/dL		
	血液-WBC (白血球数)	3.3-8.6	$\times 10^3/\mu\text{L}$		
免疫	IgG	861-1747	mg/dL	<p>IgG: 感染症、腫瘍、自己免疫性疾患を含む疾患のモニタリングとなります</p> <p>IgA・IgM: 免疫機能の全体的な機能異常を知る手がかりとなります</p>	
	IgA	93-393	mg/dL		
	IgM	男	33-183		mg/dL
女		50-269	mg/dL		
電解質	Na (ナトリウム)	138-145	mmol/L	体の水分調節、腎機能の指標になります	
	K (カリウム)	3.6-4.8	mmol/L		
	Cl (クロール)	101-108	mmol/L		

凝固	プロトロン時間	70以上	%	凝固線溶検査は、出血傾向や血栓症などの診断や治療に有用です
	APTT	24-38	秒	
	フィブリゲン	200-400	mg/dl	
	ATⅢ	80-130	%	
	FDP	5未満	μg/ml	
	Dダイマー	1.0以下	μg/ml	
腫瘍	CEA	5.0以下	ng/ml	腫瘍性病変の診断に有用な検査となります ※ 腫瘍以外でも高値となることがあります
	AFP	13.4以下	ng/ml	
	CA19-9	37以下	U/ml	
	PSA	4以下	Ng/ml	

- 「基準範囲内・範囲外」だけでは診断や治療はできません。
  - 検査結果のみで自己判断せず、必ず担当医とご相談ください。
- 令和 2.9.23 より共用基準範囲採用